

入試概要

●博士前期課程〈昨年度実績〉

◎一般入試《8月下旬》

※選抜は、学力検査(外国語科目・専門科目)、面接試験、出身大学の成績証明書等の結果を総合して行います。
※外国語科目の筆記試験を行わず、TOEIC等の点数により評価するコースがあります。詳細は、学生募集要項にてご確認ください。

◎特別入試(推薦入試)《7月上旬》

※選抜は、面接試験、出身大学の成績証明書、推薦書の結果を総合して行います。

◎特別入試(推薦入試:早期卒業生対象)《12月下旬》

※選抜は、面接試験、出身大学の成績証明書、推薦書の結果を総合して行います。

◎国際協力特別入試《8月下旬》

※選抜は、書類審査、及び面接試験の結果を総合して行います。

◎社会人特別入試《8月下旬》

※選抜は、書類審査、及び面接試験の結果を総合して行います。

◎外国人留学生特別入試《8月下旬》

※選抜は、学力検査(面接)、書類審査の結果を総合して行います。

◎協定校推薦入試《6月中旬、10月下旬》

※選抜は、書類審査の結果により行います。

●博士後期課程〈昨年度実績〉

◎一般入試《8月下旬》

※選抜は、口述試験及び書類審査の結果を総合して行います。

◎社会人特別入試《8月下旬》

※選抜は、口述試験、及び書類審査の結果を総合して行います。

◎外国人留学生特別入試《8月下旬》

※選抜は、口述試験、及び書類審査の結果を総合して行います。

◎協定校推薦入試《6月中旬、10月下旬》

※選抜は、書類審査の結果により行います。

◎英語による特別コース入試《6月中旬、10月下旬》

※選抜は、書類審査の結果により行います。

※なお、詳細は本研究科ホームページをご覧ください。



アクセス

- 秋田まで
 - 飛行機
 - 札幌から — 約1時間
 - 東京から — 約1時間
 - 名古屋から — 約1時間30分
 - 大阪から — 約1時間30分
 - 新幹線
 - 東京から — 約4時間
 - 高速道路
 - 仙台から — 約3時間
- JR秋田駅から、秋田大学
手形キャンパスまで約1.3km
 - 徒歩: 秋田駅東口から約15分
 - バス: 秋田駅西口バスのりば
12番線から秋田中央交通
手形山大学病院線
約5分「秋田大学前」下車

秋田大学 大学院理工学研究科

GRADUATE SCHOOL OF ENGINEERING SCIENCE AKITA UNIVERSITY



秋田大学 大学院理工学研究科

大学院理工学研究科へのご質問・不明な点については、遠慮なく下記広報・企画担当までお問い合わせください。
〒010-8502 秋田市手形学園町1-1 Tel.018-889-2318 Fax.018-889-2300
ホームページ <http://www.riko.akita-u.ac.jp/>



2020

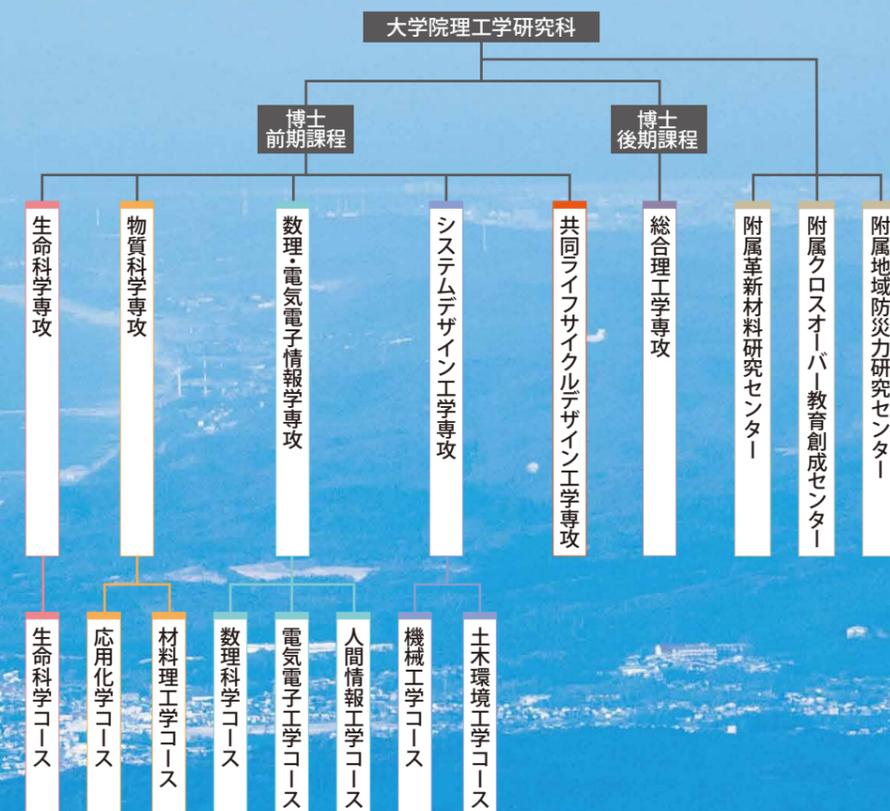
「理」の強化による地方創生、 国際社会での イノベーション実現のための人材養成。

私たちの社会は第4次産業革命と呼ばれる技術革新の時代を迎えており、サイバー空間とフィジカル空間が高度に融合された Society5.0の実現が近づいています。Society5.0では、フィジカル空間において膨大な情報(ビッグデータ)を、IoT(モノのインターネット)を通して入手し、AI(人工知能)を活用して解析することで、新たな価値を産業や社会に還元します。その実現のためには、深い専門性と幅広い視野を持ち、新しい概念や手法を理解し統合していく総合的能力を持った人材が求められます。理工学研究科では、各分野の確固たる基礎の上に立ち、複数の分野を融合し新たな価値を生み出すエンジニアリングデザイン能力を持った人材を養成する教育研究プログラムを展開しています。

博士前期課程では、生命科学専攻、物質科学専攻、数理・電気電子情報学専攻、システムデザイン工学専攻と、秋田県立大学との共同大学院ライフサイクルデザイン工学専攻を設けています。また、附属革新材料研究センターを設置して材料・素材の研究を推進しています。共通科目と他コース科目を履修することにより、分野横断的な専門知識や技術を習得します。

博士後期課程では、社会や企業が求めるイノベーション創出のための深い専門性と幅広い視野、理工学分野を横断した俯瞰力・総合力を併せ持ち、指導的に活躍できる人材を育成するために、分野融合型の総合理工学専攻を設置しています。

大学院理工学研究科組織図



大学院で修得できる能力

理工学分野の高度な専門知識・技術を原理から体系的に修得し、これを実社会で活用・展開し、さらに専門領域に拘らない柔軟性・国際的視野・確かな倫理観を持って、地方創生さらには我が国の持続的発展に寄与貢献できる高度技術者・研究者・教育者を養成します。

博士前期課程では以下の6つの能力の習得を目指します。

- (1) 学部で育んだ合理的思考力・認知力(批判的思考力・分析的推論力・資料活用能力・文章力・コミュニケーション力)をさらに強化した理工系基礎力
- (2) 高度な専門知識・技術の活用能力・展開力
- (3) 高度な課題解決能力・課題発見能力、新価値創出能力
- (4) チームワークや異分野連携のための協働力
- (5) 専門外の問題に直面した際の柔軟な対応能力
- (6) グローバル化に対応できる英語表現力

博士後期課程では、リージョナルセンター機能の強化に資する地域・社会・企業が求めるイノベーション創出のための高い専門性と柔軟性、広い視野、理工学分野を横断した俯瞰力・総合力、指導力といった能力の習得を目指します。

Contents

理工学研究科の概要	01
研究紹介	03
卒業生インタビュー	05
特色ある取り組み	06
専攻・コースの概要	
Graduate School Outline	09
教員紹介	
Introduction of Faculty	12
大学院学生現員	21
進路状況	22
在校生からのメッセージ	23
留学生・社会人学生からのメッセージ	24
学生サポート	25

医理工連携で、日本の未来に挑む。

秋田大学大学院理工学研究科では、理学・数学から理工学、工学の様々な分野で教員・学生が日々研究に取り組んでいます。その中から、「医理工連携」に関するテーマに取り組む研究室をご紹介します。私たちの健康を支える医療の世界は、理学や工学と繋がっています。

生命科学コース

分子細胞生理学・細胞生物学研究室 正田研究室

記憶免疫応答制御機構の解明

インフルエンザや種々のウイルスの感染に対する正常な防御や、効果的にワクチンが働くためには、ウイルスの初回感染時やワクチン接種時に異物の体への侵入を検知して記憶B細胞が正常に生成され、生体内で長期間にわたって維持されることが重要であることが知られています。

私たちは、様々な病気から体を守っている免疫系を構成する多くの細胞群のうち、記憶B細胞の分化や活性化に重要な分子を発見し、その分子がどのように働いているのかを明らかにしようとしています。これまで、記憶B細胞がつかれる胚中心と呼ばれるリンパ組織内の領域において、B細胞がどのように分化するのか詳細な仕組みを明らかにして論文報告しています (Scientific Reports, 5, p10303, 2015)。



また、最近では記憶B細胞の活性化に必須の分子を世界で初めて発見し学会で発表しています (日本免疫学会学術集会、シンポジウム招待講演、2015年)。この分子を欠損している遺伝子組換えマウス

においては、2度目の抗原感作に対する強い記憶応答が起らない異常があることが明らかとなっています。また、免疫系に異常をきたしたある種のマウスにおいては、この分子が正常なマウスの100倍以上大量に作られていることも明らかとなりつつあります (図1)。

これらのことから、正常な免疫応答が起るためには、この分子の適切な発現制御が重要であることが予想されます。

現在は医学系研究科の研究室との共同研究を進め、ヒトの免疫疾患においても同様の異常がみられるのかどうか、また、その異常を治すための創薬を目指して研究を進めています。

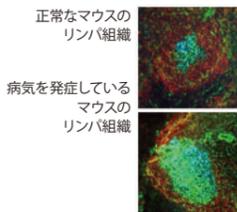


図1. 遺伝子の制御異常が病気の発症につながる



正田 正喜 教授プロフィール
京都大学大学院工学研究科修了。博士(工学)。専門分野は、免疫学、細胞工学。遺伝子組換えを用いて免疫疾患の新規創薬を目指している。

人間情報工学コース

生体計測・情報支援研究室 水戸部研究室

ヒトを中心としたIT技術で検査・治療する



開発した金コート感温磁性体微粒子

体外から高周波磁場で発熱体を誘導加熱するハイパーサーミアにより悪性腫瘍を収縮させる

手術不可能な末期の進行癌、突然命を失ってしまう悲惨な交通事故、残念ながら世界には人類が未だ克服できない多くの課題が残っています。本研究室では、医学部と共同で末期の肺癌患者のQOL向上を目的としたハイパーサーミア(温熱療法)を研究しています。本手法は一旦患部に発熱体を注射する必要がありますが、毎回の治療時には痛みを感じることなく腫瘍部のみを加熱する自動温熱療法システムを開発しています。その他、本学で開発した高精度なモーションキャプチャ(MoCap)により名医の手技を記録し、医学生がHMDを介して名医の手の動きを立体映像として学べる教材の制作、屋内で安全に高齢者の交通事故誘発要因を調査できるVRシミュレータ等を開発しています。

人間情報工学コースでヒトを中心とした最新の情報技術(IT)を学び、一緒に健康長寿社会を実現する研究や新たな価値創造にチャレンジしませんか?



3D-CGで再現された名医の手技



仮想空間に構築した交通環境での自転車と自動車との交通事故発生状況を明らかにすることで、高齢者の交通事故防止技術を開発する。

VR技術とMoCap技術を融合させて研究開発したCycling & Driving Simulator



水戸部 一孝 教授プロフィール
秋田大学鉱山学部卒業。北海道大学大学院工学研究科生体工学専攻博士課程修了。Massachusetts Institute of Technology, Visiting Scientist 専門は生体工学。

機械工学コース

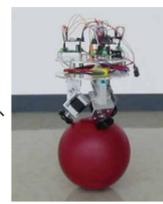
機械システム制御研究室 長縄研究室

ロボティクス技術を導入した医療機器開発



消化管運動を解明するため実験動物にカテーテルを挿入する様子

本研究室では、ロボティクスとその医療分野への応用に関する研究開発を行っています。ロボティクス分野では、玉乗りロボットの動きを制御する研究(右写真)、2.7mmのモーターで物体を動かす駆動装置の開発などを進めています。また、これらの技術を医療分野へ応用し、消化管内科では消化管の運動計測のためのカテーテル開発(上部写真)、歯科口腔では眼窩を含む欠損部の補てつ物であるエビテーゼを瞬きさせる研究(左下写真)、脳神経外科では多彩で高度な手術を行うための多指マジックハンドの開発(右下写真)などを行っています。このように医療分野で多岐にわたる研究を進められるのは、機械工学の基礎を身に付け、ロボティクス分野の研究で培ってきた知識と経験があるためです。ぜひ機械工学コースに入学し、機械工学の基礎を学びながらこれからの社会で必要とされるロボティクス技術や医療機器を創って行きましょう。



玉乗りロボットの制御



瞬きエビテーゼの開発



3Dプリンタで製作したマジックハンド



長縄 明大 教授プロフィール
東北大学大学院工学研究科機械工学専攻博士課程修了。専門分野は制御工学、ロボティクス、医用工学。“ヒューマン”と“ロボティクス”をキーワードに研究開発を進めている。

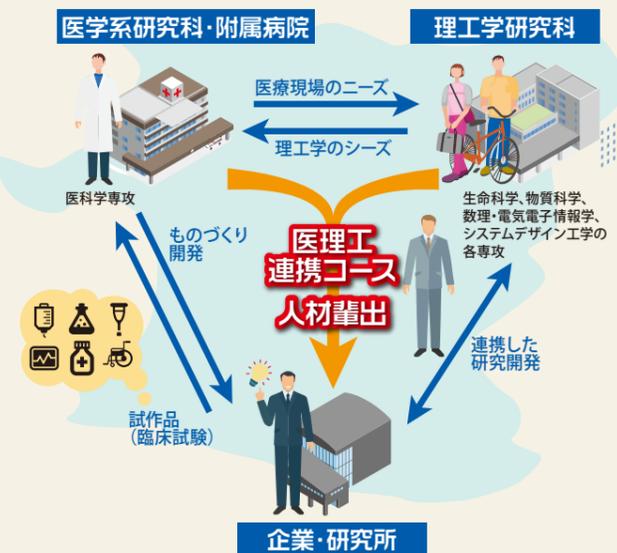
大学院教育プログラム「医理工連携コース」

高齢化の進展と新興国における医療需要拡大を受け、医療機器の世界市場は約8%の成長率を維持しています。しかしその中で日本の医療機器市場は輸入超過が続いています。これらの問題を解決するため、政府は成長戦略の一つとして「国民の健康寿命の延伸」を掲げています。そして、医理工連携による医療機器開発を促進するための研究開発を支援し、医療機器の承認審査の迅速化に向けた取り組みや、研究開発人材を育成する事業を開始しています。一方、秋田大学は、秋田県と医理工連携プロジェクトを遂行し、その研究成果を製品化して世の中に送り出してきました。

このような背景により、秋田大学は「医理工連携」をこれからの看板の一つとして掲げ、この分野の研究・開発や人材育成に力を入れています。また、地域貢献の一つとして、秋田県内の医療福祉分野の産学官連携をさらに強化し、新しい機器の研究開発から製造までを行う体制作りにも貢献したいと考えています。これは、単に医療機器の製品化のみならず、地域における安定した雇用創出にもつながると考えられます。

医理工連携コースは、秋田県の医療をリードする医学系研究科・附属病院と、新しいモノづくり・コトづくりを目指す理工学研究科、双方の橋渡しをする大学院教育プログラムであり、新しい製品の研究開発のみならず、今後、秋田県の発展に貢献できる人材を輩出することを目指しています。コース生になると、特許戦略や様々な分野における研究開発の最前線を聴くことができ、さらに医学の基礎を学びながら病院の中で行われる医療保健実習に参加することができます。医理工連携コースが養成する人材像は次のとおりです。

『医学と理工学、双方の言葉を理解でき、医療現場のニーズを把握してその解決に取り組み、地域医療の発展と産業創出、ひいては日本国民のQOL向上に貢献する研究者、技術者、コーディネータとして活躍できる人材を育成する。』
我こそはと思う方は、ぜひコースに入り、学んでください。



※注1 本教育プログラムを履修するには、秋田大学大学院の理工学研究科(生命科学、物質科学、数理・電気電子情報学、システムデザイン工学の各専攻)、または医学系研究科(医学専攻)に入学していることが必要です。
※注2 本教育プログラムでは、本学医学部・附属病院と共同で研究を進めます。履修者は医理工学に関連する修士論文の作成を行い、また所定の単位を修得することでコース修了証が発行されます。

知的好奇心が 研究・開発の源泉です。

佐藤 洋氏

◎学歴/学部：秋田大学工学資源学部 2002年卒業
 大学院：秋田大学工学資源学研究所博士前期課程 2004年修了
 秋田大学工学資源学研究所博士後期課程 2012年修了
 ◎職歴/2004年10月株式会社アイオムテクノロジー入社
 2010年4月TDK株式会社入社
 ◎赴任先/2017年4月TDK Electronics GmbH & Co OG(オーストリア)

秋田大学を志望したきっかけを教えてください。

一関高専を卒業する年齢になり、はじめて就職することを考えたときに、自分に何も自信になるものがないことに気づき、もっと勉強したいという気持ちになり、そのときの研究室の恩師に相談したところ、秋田大学を勧めていただいたというのが志望したきっかけです。

秋田大学へは学部3年次に編入しました。3年次の途中から研究室に配属され、先生の指導の下、研究に没頭しました。仮説を立てて、実証し、良いモノをつくる、これまで勉強してきたことが役に立ち、自分の自信に繋がっていくのを感じました。大学での2年間ではあまりにも早く、さらなる成長を追い求めて大学院に進みました。



大学ではどのような研究をされていましたか。

学部では積層セラミックコンデンサの材料の合成について研究しました。その後、大学院では材料の合成だけでなく、ペースト調製、シート成形、積層、脱バインダー、焼成といった一連の厚膜プロセスを覚え、それらを用いた積層型電子部品の調製に関する研究を行いました。

現在の仕事についておしえてください。

現在は、厚膜プロセスを用いた、世界初のSMDタイプの全固体電池CeraChargeの開発・量産の仕事に従事しています。就職してから13年間一貫して、同じ仕事に携わっています。開発当時は、厚膜プロセスを用いて全固体電池を作るというコンセプトだけで、技術的な情報が全くありませんでしたので、本当に出来るかも分からない先の見えないゴールに向かって、先輩技術者や大学の先生方のアドバイスを基に、実験の繰り返しの毎日でした。その後、改善に改善を重ね、現在は、プロトタイプから量産への移行のためにオーストリアのドイチュランツベルク工場に赴任しています。英語が苦手な私ですが、気さくな同僚たちのおかげで大変な仕事ながら毎日楽しく仕事をすることができています。

大学で学んだことは、現在の仕事にどのように活かされていますか？

大学の研究室で学んだ多くのこと、知識や技術だけでなく、研究室で過ごした生活の全てが、今の私の大きな土台になっています。大学院時代に行った幾多の実験により、プロセス全体を見通してモノの設計ができるようになったことは、現在の仕事においても大いに活かされています。

大学院進学を目指している方へメッセージをお願いします。

知的好奇心が研究・開発の源泉だと思います。秋田大学にはそれをかなえるための環境(場所・物・人)が揃っており、あとはその活用の仕方次第で拓ける将来は変わってきます。秋田大学で自信に繋がるものを築けるような大学生活を送って欲しいと思います。



特色ある取り組み

1 理工学全般の分野を融合した視野の拡大

◎理工学デザイン

大学院博士前期課程1年次の教育プログラムの一つで、他分野を専門とする学生や教員と分野を横断した交流を図り、幅広く原理・手法・視点を学ぶもので、社会で求められる柔軟性を身に付けます。



◎人工知能と分野融合のデータサイエンス

人工知能とデータサイエンスの最新動向や手法、融合分野における応用に関する講義とプログラミングの実践について学びます。また、自分の専門分野における情報技術の利活用についてプレゼンテーションやディスカッションを行い、これからの社会で必要とされる知識・技術への理解を深めます。本講義を通じて、超スマート社会(Society5.0)に対応する素養を身に付けます。

2 地域産業と理工学分野の様々な応用の理解

◎地域産業アントレプレナー論

地域産業の現状、地域創生に及ぼす研究の意義、起業するためのニーズとシーズを把握すると共に、ベンチャーマインドを醸成します。



◎長期インターンシップ・短期インターンシップ

インターンシップに積極的に参加して産業界の現場を理解することを奨励します。

3 グローバル化社会への対応力

◎Introduction to Life Science, Introduction to Materials Science, Information and Communication Technologies for Community, Introduction to Systems Design Engineering

外国人教員が、専門分野の基礎を英語で紹介すると共に、その専門分野を英語で理解し表現するための実践的スキルを身に付けます。国際コミュニケーション能力を身に付け、グローバル化社会への対応力を身に付けます。

◎英語スキルアップセミナー

博士後期課程では、専門分野における英語力の基礎能力に加えて、英語による運用能力(国際学術雑誌への投稿、国際研究集会、ワークショップやシンポジウムへの参加・議論・運営、メールを介したコミュニケーション、グラントライティングなど)を学びます。英語によるコミュニケーション能力を強化することで、国際研究集会に参加したり、海外留学し国際交流を通じて国際的に活動する能力を身に付けます。



秋田大学国際交流協定校 インドVIT大学主催の国際会議での様子

専攻・コースの概要

《博士前期課程》

専攻・コース・授与学位	専攻の概要
生命科学専攻 ○生命科学コース【修士(理学)】	生命科学分野における研究成果は、数多くの新しい科学技術の発展のための転機となっており、生命科学は人類社会の明日を切り拓く学問であるといえる。こうした現状を踏まえ、本専攻では、生命現象の巧妙な仕組みを解明する研究者を養成するほか、将来、生命科学の高度な知識、思考力、研究能力を生かせる職業に携わり、中核的・指導的な役割を担う人材、さらには「理学」に立脚しながら「医学」、「薬学」、「工学」、「農学」などの境界領域や学問的分野での研究・開発を牽引し、医療、医薬品、食料生産、生物エネルギー資源開発等、生命科学関連のあらゆる分野で活躍できる人材の養成を目指す。
物質科学専攻 ○応用化学コース【修士(理工学)】 ○材料理工学コース【修士(理工学)】	今日、エネルギー問題や環境破壊、資源枯渇などが地球的規模で深刻化する中、グリーンイノベーションならびに高効率インフラシステムの推進に向けた技術開発への需要が高まり、応用化学や材料理工学を基盤とした物質科学が果たす役割はかつてないほど重要性を増している。こうした社会の要請に応えるためには、物理学、化学、数学を横断した基礎科学の知識を結集して、物質がもつ潜在能力を極限まで追求しながら、新物質・新機能の創出実現を目指していかなくてはならない。本専攻では、現代社会が直面する物質科学に関連する諸課題に対処でき、高い倫理性を兼ね備えた技術者・研究者・指導者を養成する。専攻内には応用化学コースと材料理工学コースを設置し、互いに密に連携して大学院の教育・研究にあたる。
数理・電気電子情報学専攻 ○数理学コース【修士(理学)】 ○電気電子工学コース【修士(工学)】 ○人間情報工学コース【修士(工学)】	数理・電気電子情報学専攻では、専門分化した数理学・電気電子工学・情報工学の広大な学問領域を俯瞰しながら、超高齢社会に新たな技術や価値を創造するために必要な知識や技能を学ぶことができる。また、チームワークの大切さを認識すると共にリーダーシップを発揮し、想定外の問題にも対応できる能力を身につける。 数理・電気電子情報学専攻は次のような人材の育成を目標とする。 I. 基盤産業の発展、エネルギー問題解決、ヒトとコンピュータの調和に貢献し、技術開発の変革を担うことができる人材 II. 数理学(数学、理論物理学、計算機科学)に関する高度な専門知識・技能・洞察力を活かして地域社会に貢献できる教員などの人材 III. 高齢化先進県である秋田が抱える地域の課題を解決するための技術を開発し、これを世界に発信できる人材
システムデザイン工学専攻 ○機械工学コース【修士(工学)】 ○土木環境工学コース【修士(工学)】	科学技術の急速な発展と共に、二酸化炭素排出による地球温暖化や再生可能エネルギーの開発など様々な社会問題に直面しており、その一方で各種機器の高機能化に伴う技術向上など、機械工学の果たすべき役割は益々重要となってきている。また、近年では輸送機械の電動化、医療福祉工学、環境に優しい機械技術が注目されている。さらに、高齢化社会の進展に伴い、医療福祉分野のみならず、環境に調和した土木技術の創出と都市・地域システムの機能向上化のためのまちづくりとその保全は急務である。システムデザイン工学専攻では、これらの複雑かつ大規模なシステムの設計開発に関する教育・研究を通じて、機械工学、土木環境工学の各専門分野の基礎知識を備えつつ、システムデザインとしての横断的な知識を持ち、地域ニーズを正しく把握し、地域社会のみならず世界へも貢献できる研究開発者や技術者の養成を目標とする。
共同ライフサイクルデザイン工学専攻 ○【修士(工学)】	高度に発展を続ける現在の産業社会においては、従来の枠組みでは対応しきれない課題も多く見出されるようになってきた。特に最近では、環境負荷の低減、循環型社会の形成などといった問題が日増しに強くなってきている。本専攻は、このような社会的ニーズを考慮し、秋田大学大学院理工学研究科と秋田県立大学大学院システム科学技術研究科の共同大学院として設置されたものである。本専攻の名称となっているライフサイクルデザイン工学は、工学の一分野であり、環境負荷を低減するために、資源の採掘、製品の企画・設計、製造などから廃棄・リサイクルにいたるまでのすべてのサイクルを考慮するという点に特色があり、材料工学、情報工学、機械工学、電気電子工学、土木建築工学、経営工学などの工学のさまざまな分野と密接に関係している。本専攻は、広い視野と高い倫理観を持ち、国際的な視野から循環型社会の形成に貢献できる人材の育成、及び環境に配慮しつつ地域社会の活性化に貢献できる人材の育成を目的としている。この目的のために、本専攻を構成する二つの講座は密接な連携の下、ライフサイクルデザイン工学に関する高度な教育・研究を行っている。

《博士後期課程》

専攻・授与学位	専攻の概要
総合理工学専攻 ○【博士(理学)】 ○【博士(理工学)】 ○【博士(工学)】	総合理工学専攻は、生命科学、物質科学、数理・電気電子情報学及びシステムデザイン工学といった専門分野に対する高度な知識をベースとして、他の専門分野においても幅広い知識を有し、社会的ニーズを的確にとらえ、リーダーとして社会に貢献できる高度技術者あるいは、自立した高度な研究者・教育指導者を養成する専攻であり、「生命科学領域」「物質科学領域」「数理・電気電子情報学領域」「システムデザイン工学領域」の4領域で構成する。

Graduate School Outline

《Master's Degree Program》

Department・Course・Degree	Department Outline
Department of Life Science ○Life Science Course 【Master of Science】	Many researches in the life science have been applied to the novel scientific technologies, which resulted in a revolution of the fields. In other words, life science contributes to the future of the human society. Based on this view point, the department of life science focuses on the education of students to become researchers who may reveal the sophisticated regulatory mechanism of the wide varieties of life phenomenon. Thus, our aim is to provide opportunities to become specialists with deep insight, ability of logical thinking and high performance in basic and applied researches. Also, students are expected to become leaders in the companies where they can take advantage of the knowledge and the abilities they learned during the course. In addition, our aim also is to raise specialists who can actively promote research and development in the fields of 'medicine', 'pharmacology', 'industrial technology' and 'agricultural science' based on the field of basic science. These specialists are also expected to actively participate in the medical fields, pharmaceutical companies, food agriculture field and biological energy development, which are all collaborative fields of life science.
Department of Materials Science ○Applied Chemistry Course 【Master of Engineering Science】 ○Materials Science and Engineering Course 【Master of Engineering Science】	Today, as energy problems, environmental degradation, resource depletion, and other global issues become increasingly serious, demands are heightening for the development of technology which promotes green innovation and highly efficient infrastructure systems. The role to be played by materials science, based on applied chemistry and on materials science and engineering, is becoming more important than ever before. Responding to these needs of society, it is essential that we bring together scientific knowledge across the basic fields of physics, chemistry, and mathematics, pursuing the limits of the potential in materials while aiming to create new materials and functions. This department develops engineers, scientists, and educators equipped with a strong sense of ethics, who are able to use their expertise in materials science to deal with many issues facing modern society. The department consists of the Applied Chemistry Course and the Materials Science and Engineering Course, playing a closely interrelated role in the education and research of the Graduate School.
Department of Mathematical Science and Electrical-Electronic-Computer Engineering ○Mathematical Science Course 【Master of Science】 ○Electrical and Electronic Engineering Course 【Master of Engineering】 ○Human-Centered Computing Course 【Master of Engineering】	The Department offers opportunities for watching over the vast academic fields covering highly specialized disciplines of Mathematical Science, Electrical and Electronic Engineering, and Computer Engineering, to learn the knowledge and skills necessary for the creation of new technologies and value for a highly aging society. Students will also acquire the skills for exercising leadership based on recognition of the importance of teamwork, and for dealing with unanticipated problems. The department aims to train the following human resources; I. Contributors to the advance of basic industries, solutions to energy problems, and harmony between humans and computers, driving revolutions in technology development, II. Educators and other contributors to local communities, equipped with highly specialized knowledge, skills, and insight in Mathematical Science (mathematics, theoretical physics, and computer science), III. Developers of technologies for solving regional issues faced by Akita Prefecture with its advanced state of aging, who can also communicate these to the world.
Department of Systems Design Engineering ○Mechanical Engineering Course 【Master of Engineering】 ○Civil and Environmental Engineering Course 【Master of Engineering】	In parallel with rapid advances in science and technology, society is facing problems such as global warming from CO ₂ emissions and the need to develop renewable energy sources. Here the role of mechanical engineering is of growing importance, in such areas as improving the technologies needed to enhance the functionality of equipment. Meanwhile, electro-mechanical transportation equipment, medical engineering and sustainable mechanical engineering are the emerging research areas. The aging of society has also created an urgent need for technology advances, not only in the health and welfare area but in creating civil engineering technologies in harmony with the environment and improving the functions of urban and regional systems to build and maintain better communities. The Department of Systems Design Engineering, through education and research on the design and development of these complex and large-scale systems, aims to nurture researchers, developers, and engineers equipped with fundamental knowledge in the specialized fields of creative mechanical engineering, and civil and environmental engineering, as well as having knowledge across the fields of system design, and who, with their accurate awareness of regional needs, are able to contribute to local society and to the world.

Graduate School Outline

Department・Course・Degree	Department Outline
Cooperative Major in Life Cycle Design Engineering ○【Master of Engineering】	<p>In today's industrial society with its ongoing advanced development, numerous issues have emerged that cannot be dealt with adequately in traditional frameworks. Recent years, in particular, have seen growing needs for tackling such issues as reducing environmental impact and forming a material-cycle society. In the light of such needs of society, this major was established as a joint course of the Akita University Graduate School of Engineering Science and the Akita Prefectural University Graduate School of Systems Science and Technology.</p> <p>“Life cycle design engineering” in the course name is a branch of engineering that seeks to reduce environmental impact throughout the entire life cycle from resource mining and product planning, design, and manufacturing to disposal and recycling. It is therefore closely tied to many other fields of engineering including materials engineering, computer engineering, mechanical engineering, electrical and electronics engineering, civil and architectural engineering, and management engineering.</p> <p>This major aims to develop human resources with a broad viewpoint and high sense of ethics, who can contribute from an international perspective to formation of a material-cycle society, and to revitalizing local communities in environmentally conscious ways. Toward these objectives, advanced education and research are carried out concerning life cycle design engineering through the close collaboration of the two schools offering this major.</p>

《Doctor's Degree Program》

Department・Degree	Department Outline
Department of Integrated Engineering Science ○【Doctor of Science】 ○【Doctor of Engineering Science】 ○【Doctor of Engineering】	<p>The Department of Integrated Engineering Science consists of four fields: the Field of Life Science, the Field of Materials Science, the Field of Mathematical Science and Electrical-Electronic-Computer Engineering, and the Field of Systems Design Engineering. The aim is to develop advanced engineers, scientists capable of advanced independent research, and educators, equipped with a strong foundation in the specialized fields of life science, materials science, mathematical science and electrical-electronic-computer engineering, and systems design engineering, and with broad knowledge in other specialized areas, who will accurately recognize the needs of society and contribute to society as leaders.</p>

教員紹介 Introduction of Faculty

生命科学専攻 生命科学コース Department of Life Science, Life Science Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
生命分子科学系 Chemistry and Chemical Biology	教授 藤原 憲 秀 Prof. Kenshu Fujiwara	生物活性天然有機化合物の全合成と人工生物機能分子の開発 Total synthesis of bioactive natural products and development of synthetic, biofunctional molecules
	教授 尾高 雅 文 Prof. Masafumi Odaka	産業・医療用タンパク質の構造・機能解明 Structural and functional analyses of industrially and/or medically important proteins
	准教授 秋 葉 宇 一 Associate Prof. Uichi Akiba	化学修飾電極によるナノバイオインターフェースの創成 Development of nanotechnology oriented bioelectrical devices
	准教授 天 辰 禎 晃 Associate Prof. Yoshiaki Amatatsu	量子化学的手法による光機能性分子の理論設計 Computational design of photofunctional molecules
	准教授 近 藤 良 彦 Associate Prof. Yoshihiko Kondo	環状化合物を基本骨格とする超分子の機能及び構造解明 Supramolecular chemistry based on macrocyclic compounds
	講師 松 村 洋 寿 Lecturer Hirotohi Matsumura	医薬品の作用機序の解明 Exploiting sensing techniques for biomolecules and biological cells
分子細胞生物学系 Molecular Cell Biology	教授 涌 井 秀 樹 Prof. Hideki Wakui	血液・腎・リウマチ性疾患の基礎・臨床研究、温故知新創薬 Basic and clinical studies of hematologic, renal, and rheumatic diseases Drug repositioning
	教授 久保田 広 志 Prof. Hiroshi Kubota	神経変性疾患と凝集性タンパク質に関する研究 Study for neurodegenerative disease and protein aggregation
	教授 疋 田 正 喜 Prof. Masaki Hikida	記憶B細胞の活性化調節機構の解明 Study for regulatory mechanisms of memory B cell activation

物質科学専攻 応用化学コース Department of Materials Science, Applied Chemistry Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
有機材料化学 Chemistry of Organic Materials	教授 寺 境 光 俊 Prof. Mitsutoshi Jikei	機能性高分子の合成と機能評価 Synthesis and properties of functional macromolecules
	准教授 松 本 和 也 Associate Prof. Kazuya Matsumoto	有機材料の合成と機能材料への応用 Synthesis and applications of functionalized organic materials

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
応用物理化学 Applied Physical Chemistry	教授 村上 賢 治 Prof. Kenji Murakami	炭素資源変換触媒の開発と新規有機無機複合体の合成 Development of carbon resources conversion catalysts and synthesis of new inorganic-organic composites
無機材料化学 Inorganic Materials Chemistry	教授 加藤 純 雄 Prof. Sumio Kato	新規金属複酸化物の合成と環境浄化材料への応用に関する研究 Studies on synthesis of complex metal oxides and application to materials for environmental purification
	講師 小笠原 正 剛 Lecturer Masataka Ogasawara	機能性多孔質材料や有機無機複合体の調製に関する研究 Studies on preparation of functionalized porous material and inorganic-organic composite
機能界面化学 Functional Surface Chemistry	教授 進藤 隆世志 Prof. Takayoshi Shindo	エネルギー変換触媒と環境浄化触媒に関する研究 Surface chemistry of efficient catalysts for energy and environmental conservation
	講師 井上 幸彦 Lecturer Yukihiko Inoue	有機反応化学および機能性高分子化学に関する研究 Chemistry about organic reactions and functional polymers
化学プロセス設計工学 Chemical Engineering	准教授 高橋 博 Associate Prof. Hiroshi Takahashi	化学プロセスの新規開発とIoT技術による運転データの可視化 Development of new chemical processes, and its visualization of operating data via IoT techniques
エネルギー化学工学 Energy Chemical Engineering	教授 菅原 勝 康 ^{②①} Prof. Katsuyasu Sugawara	エネルギー資源の高効率利用プロセス開発に関する研究 Development of efficient utilization process of energy resources
	准教授 大川 浩 一 Associate Prof. Hirokazu Okawa	超音波による化学反応を利用した電池材料や環境浄化材料の合成に関する研究 Application of sonochemical reaction for the synthesis of battery materials and environmental purification materials
	講師 加藤 貴 宏 Lecturer Takahiro Kato	二次資源からの有価金属回収技術開発に関する研究 Development of selective recovery process of valuable metals from secondary resources
バイオプロセス工学 Bioprocess Engineering	教授 後藤 猛 Prof. Takeshi Gotoh	生体反応を利用した機能性物質の高効率生産とその利用に関する研究 Highly efficient production and utilization of functional substances utilizing biological reactions
超分子材料化学 Supramolecular and Material Chemistry	講師 山田 学 (革新材料研究センター) Lecturer Manabu Yamada (Research Center of Advanced Materials for Breakthrough Technology)	レアメタルの効率的な分離剤の開発 Development of new extractants and adsorbents for separation of precious metals

物質科学専攻 材料工学コース

Department of Materials Science, Materials Science and Engineering Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme	
マテリアル科学 Materials Science	教授 齋藤 嘉 一 Prof. Kaichi Saito	先端電子顕微鏡法を駆使した合金の組織・構造制御と新機能創出 Microstructure control of alloys and development of new materials by advanced electron microscopy	
	教授 小玉 展 宏 ^{②①} Prof. Nobuhiro Kodama	無機固体材料の光物性とフォトニック結晶の創製 Optical spectroscopy of novel inorganic solid-state materials and fabrication of photonic crystals	
	教授 林 滋 生 Prof. Shigeo Hayashi	環境セラミック材料の構造・機能制御に関する研究 Study on the structural and functional control of environmental ceramic materials	
	准教授 藁 千 修 Associate Prof. Yukinobu Natsume	数値計算法を用いた合金の凝固組織予測モデルの開発 Development of numerical simulation model to predict the solidification structures for alloys.	
	講師 肖 英 紀 Lecturer Yeong-Gi So	金属・合金物質の原子構造および物性 The atomic structure and physical properties of metals and alloys	
	講師 長谷川 崇 Lecturer Takashi Hasegawa	真空成膜とナノテクによる先端磁性材料の開発 Development of advanced magnetic materials by sputtering method and nanotechnology	
	講師 辻内 裕 Lecturer Yutaka Tsujiuchi	有機分子と半導体を用いた分子エレクトロニクスデバイスの開発 Development of molecular electronics device using organic molecules and semiconductor	
	特任講師 河野 直 樹 Specially-appointed Lecturer Naoki Kawano	放射線検出に用いる蛍光体材料の開発 Development of phosphor materials for radiation detection	
	マテリアル機能 Materials Function	教授 大 口 健 一 Prof. Ken-ichi Ohguchi	材料の変形シミュレーションに関する研究 Studies on numerical and experimental methods for constitutive modeling for materials.
		教授 原 基 ^{②①} Prof. Motoi Hara	機能性表面の作製と表面の物理化学的現象の研究 Preparation of functional surface and study on physico-chemical phenomena of surface
教授 田 口 正 美 ^{②①} Prof. Masami Taguchi		燃料電池および省エネルギー電極材料の開発 Development of high-performance fuel cells for electric vehicles and energy-saving electrodes for electrochemical engineering.	

物質科学専攻 材料工学コース

Department of Materials Science, Materials Science and Engineering Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
マテリアル機能 Materials Function	教授 吉村 哲 (革新材料研究センター) Prof. Satoru Yoshimura (Research Center of Advanced Materials for Breakthrough Technology)	電界駆動型の新規磁気デバイス用高機能強磁性・強誘電薄膜の開発 Development of high functional multiferroic thin films for novel magnetic devices driven by electric field
	准教授 仁野 章 弘 Associate Prof. Akihiro Nino	超硬質セラミックスの開発 Development of structural ceramics with superior mechanical properties.
	准教授 佐藤 芳 幸 Associate Prof. Yoshiyuki Sato	計算機を利用した材料設計に関する研究 Research on materials design by computer
	准教授 福本 倫 久 Associate Prof. Michihisa Fukumoto	耐熱材料の高温酸化挙動の検討および耐酸化性表面の開発 Research on high temperature oxidation behavior of heat resistant material and development of oxidation resistant surface
	講師 後藤 育 壮 Lecturer Ikuzo Goto	鋳物の高性能化に関する研究 Research on higher-performance castings
	講師 高橋 弘 樹 Lecturer Hiroki Takahashi	燃料電池およびCO ₂ 電解還元用電極材料の開発 Development of novel fuel cell electrode and CO ₂ electroreduction electrode materials

数理・電気電子情報学専攻 数理科学コース

Department of Mathematical Science and Electrical-Electronic-Computer Engineering, Mathematical Science Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
離散系数学 Algebra, Discrete Mathematics and Computer Science	教授 山村 明 弘 Prof. Akihiro Yamamura	組み合わせ群論・半群論、組合せデザイン、暗号理論・セキュリティ Combinatorial group and semigroup theory, combinatorial designs, cryptology and information security
	講師 ファゼカス・ゾルト Lecturer Szilárd Zsolt Fazekas	新しい計算モデルの開発、オートマトン理論、言語および語の組合せ論 New computational models, automata theory, combinatorics of strings and languages
連続系数学 Geometry, Topology and Analysis	教授 河上 肇 Prof. Hajime Kawakami	逆問題の数学的研究 Mathematical study of inverse problems
	准教授 小林 真 人 Associate Prof. Mahito Kobayashi	写像を用いた形状把握と可視化の基礎理論と応用 Theoretical study of shape analysis, visualization by mappings, and their applications
	講師 中江 康 晴 Lecturer Yasuharu Nakae	低次元多様体、特に3次元多様体の葉層構造の研究 Low-dimensional topology, especially foliation theory in 3-dimensional manifolds

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
理論物理学 Theoretical Physics	教授 小野田 勝 Prof. Masaru Onoda	量子波の伝搬における幾何学的位相の効果に関する理論 Theoretical study on geometric phase effects in quantum wave propagation
	准教授 田沼 慶 忠 Associate Prof. Yasunari Tanuma	不均一な非従来型超伝導体に関する理論的研究 Theoretical study on unconventional superconductors in non-uniform systems
	講師 三角 樹 弘 Lecturer Tatsuhiro Misumi	場の量子論の非摂動解析とそれに基づく素粒子論の研究 Non-perturbative analysis of quantum field theory for particle physics

数理・電気電子情報学専攻 電気電子工学コース

Department of Mathematical Science and Electrical-Electronic-Computer Engineering, Electrical and Electronic Engineering Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
電気エネルギー工学 Electric Energy Engineering	教授 熊谷 誠 治 Prof. Seiji Kumagai	電池などのエネルギーデバイスとその構成材料に関する研究 Study on energy devices such as batteries and the related materials
	准教授 カビールムハムドゥル Associate Prof. Mahmudul Kabir	非線形材料および環境浄化に関する研究 Study on non-linear electric materials and their application to environmental purification
光・電子・磁気デバイス工学 Photonic, Electronic, and Magnetic Device Engineering	教授 倉林 徹 Prof. Toru Kurabayashi	電磁波の発生とその応用に関する研究 Study on electro-magnetic wave generation and its applications
	教授 齊藤 準 Prof. Hitoshi Saito	新規なナノスケール磁気計測法の開拓とその先端磁気デバイス評価への応用 Study on magnetic measuring techniques on nano-meter scale and their application to advanced magnetic device assessment
	准教授 佐藤 祐 一 Associate Prof. Yuichi Sato	半導体薄膜と光電変換デバイスに関する研究 Study on semiconductor thin film and photoelectric conversion devices
	准教授 河村 希 典 Associate Prof. Marenori Kawamura	新規液晶光学素子の創製とその応用に関する研究 Study on fabrication of novel liquid crystal devices and their applications
知能情報通信工学 Intelligent Information Communication Engineering	講師 淀川 信 一 Lecturer Shinichi Yodokawa	ミリ波・サブミリ波帯の電磁波伝搬に関する研究 Study on electromagnetic wave propagation in millimeter and submillimeter wave ranges
	教授 今野 和 彦 ⁽²⁾ Prof. Kazuhiko Imano	超音波を用いた計測とイメージング Study on ultrasonic instrumentation and imaging
	教授 小原 仁 ⁽²⁾ Prof. Hitoshi Obara	通信ネットワークの設計・評価技術に関する研究 Study on materials for electric energy device such as electric cells

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
知能情報通信工学 Intelligent Information Communication Engineering	准教授 田中元志 Associate Prof. Motoshi Tanaka	ヒトの活動と関連する音および生体情報の解析とその応用 Study on analysis of acoustic signals and biological information related to human activity and its application
	講師 福田 誠 Lecturer Makoto Fukuda	非線形超音波の計測と応用に関する研究 Study on measurement techniques of non-linear ultrasonic wave and their applications
	特任講師 室賀 翔 Specially-appointed Lecturer Syo Muroga	高周波デバイスの低雑音化と高効率化に関する研究 Study on low-noise and highly-efficient electronic devices in ultra high frequency band
制御システム工学 Control System Engineering	准教授 三浦 武 Associate Prof. Takeshi Miura	システム制御および最適化に関する研究 Study on automatic and optimized system control
	講師 吉田 征弘 Lecturer Yoshiyuki Yoshida	永久磁石モーターの解析・設計に関する研究 Study on analysis and design of permanent magnet motors

数理・電気電子情報学専攻 人間情報工学コース
Department of Mathematical Science and Electrical-Electronic-Computer Engineering,
Human-Centered Computing Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
生体情報工学 Biological Information Engineering	教授 水戸部 一孝 Prof. Kazutaka Mitobe	ITを活用したヒトの検査・支援技術の生体工学的研究 Bioengineering Research on Measurement and Support Technology for Human Utilizing Information Technology
	講師 中島 佐和子 Lecturer Sawako Nakajima	感覚代行とメディアアクセスビリティ向上に関する研究 Study on sensory substitution and development of accessible media
画像情報システム工学 Image Information System Engineering	教授 景山 陽一 Prof. Yoichi Kageyama	リモートセンシング、ヒューマンセンシング、画像処理、画像情報応用に関する研究 Remote Sensing, Human Sensing, Image Processing and Image Information Applications
	准教授 石沢 千佳子 Associate Prof. Chikako Ishizawa	ヒューマンエラー防止技術の開発および色彩情報の活用法に関する研究 Human Error Prevention Technologies and Utilization of Color Information
空間情報学 Spatial Informatics	教授 有川 正俊 Prof. Masatoshi Arikawa	人間活動支援のための実世界情報環境のデザインと分析に関する研究 Design and Analysis on Real World Information Environments for Supporting Human Activity
情報ネットワーク学 Information Networking and Systems	准教授 橋本 仁 Associate Prof. Masashi Hashimoto	トラフィックエンジニアリングとネットワーク最適化及びIoTネットワークシステムとその構成法に関する研究 Traffic Engineering and Network Optimization, IoT Network System and Its Design Method
コンピュータシステム学 Computer Systems Engineering	准教授 横山 洋之 (情報統括センター) Associate Prof. Hiroshi Yokoyama (Center for Information Technology and Management)	コンピュータシステムの高信頼化構成法とネットワークシステムの応用に関する研究 High-Reliable Design Method of Computer Systems and Application of Network Systems

システムデザイン工学専攻 機械工学コース
Department of Systems Design Engineering, Mechanical Engineering Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
航空宇宙システム Aerospace System	教授 渋谷 嗣 ^② Prof. Yotsugi Shibuya	複合材料システムの物理的モデリングと評価 Multi Physics Modelling and Analysis of Composite Materials and Structures
	教授 村岡 幹夫 Prof. Mikio Muraoka	航空機複合材の製造技術と電波吸収ナノ材料の開発 Nanotechnology for structural and functional materials
	教授 足立 高弘 Prof. Takahiro Adachi	回転円すいをを用いた液体の微粒化/線条化と熱移動 Heat Transfer and Atomization/Filamentation of liquid using a rotating cone
	准教授 山口 誠 Associate Prof. Makoto Yamaguchi	光と物質の相互作用を利用した表面構造評価 Raman spectroscopic characterization of subsurface structure
	准教授 秋永 剛 Associate Prof. Takeshi Akinaga	乾燥地帯で有効な農法の確立 A restorative approach to agriculture
	講師 平山 寛 Lecturer Hiroshi Hirayama	人工衛星・宇宙探査機のシステム設計およびダイナミクス System design and dynamics of spacecraft
	講師 木下 幸則 Lecturer Yukinori Kinoshita	原子間力顕微鏡を用いた表面物性の定量値イメージング法の開発 Development of quantitative imaging methods for revealing surface physical properties with atomic force microscopy
	講師 趙 旭 Lecturer Xu Zhao	ナノ構造体の形態制御と電気機能材料の創製・信頼性評価 Morphology control of nanostructures and fabrication/reliability evaluation of electro-functional materials
医用システム工学 Medical System Engineering	教授 長縄 明大 Prof. Akihiro Naganawa	医療機器やアクチュエータの開発、機械システムの制御法に関する研究 Development of medical devices and new actuators, Study on control method of mechanical systems
	教授 巖見 武裕 Prof. Takehiro Iwami	障害者の運動機能を再建するための研究とそのロボット工学への応用 Reconstruction of motor function and medical engineering
	准教授 山本 良之 Associate Prof. Yoshiyuki Yamamoto	磁気応答性機能材料を対象とした熱的・機械的特性の研究 Study on mechanical and thermal properties of functional magnetic materials
	准教授 佐々木 芳宏 Associate Prof. Yoshihiro Sasaki	油圧・空圧の長所を生かした流体制御技術の開発 Development of fluid control technology making full use of the advantages of hydraulic systems and pneumatic systems
	講師 関 健史 Lecturer Takeshi Seki	光と機械を融合させた医療・産業用デバイスに関する研究開発 Development of medical/industrial devices using optical systems and machine parts.

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
環境適合システム Environmentally Friendly System	教授 田子 真 Prof. Makoto Tago	数値シミュレーションによる地熱エネルギー採取方法と氷の融解挙動 Numerical Simulation of a Downhole Heat Exchanger, and Melting Behavior of Ice in a Aqueous Binary Solution
	教授 奥山 栄樹 Prof. Eiki Okuyama	精密測定と精密設計 Nano-metrology and ultra-precision mechanism design
	准教授 小松 喜美 Associate Prof. Yoshimi Komatsu	相変化を伴う伝熱現象の研究 Heat and mass transfer with phase change
	准教授 宮野 泰征 Associate Prof. Yasuyuki Miyano	構造材料を対象とした接合技術に関する研究/金属の微生物腐食の機構解明に関する研究 Research on joining and welding processing for structural materials / Elucidation of the mechanism of bio-corrosion of metals
	講師 杉山 渉 Lecturer Wataru Sugiyama	真空中を流れる気体や自然エネルギー利用に関する研究 Small wind turbine, Rarefied gas flow
講師 古林 敬顕 Lecturer Takaaki Furubayashi	持続可能なエネルギーシステムの設計および解析に関する研究 Design and analysis of sustainable energy systems	

システムデザイン工学専攻 土木環境工学コース Department of Systems Design Engineering, Civil and Environmental Engineering Course

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
環境構造工学 Structural Engineering	教授 後藤 文彦 Prof. Humihiko Gotou	3D構造解析シミュレーションを用いた構造物の性能評価に関する研究 Performance evaluation of structures using 3D FEM simulation
	講師 野田 龍 Lecturer Ryu Noda	木製土木構造物の強度・耐久性に関する研究 Study on strength and durability of wooden civil engineering structures
水環境工学 Hydraulics and Hydraulic Engineering	准教授 渡邊 一也 Associate Prof. Kazuya Watanabe	津波や洪水を対象とした防災システムに関する研究 Study on Disaster Prevention Pystem for Tsunami and Floods
地盤環境工学 Geotechnical Engineering	准教授 荻野 俊寛 Associate Prof. Toshihiro Ogino	泥炭性軟弱土の強度・変形に関する研究 Research in Strength and Deformation Characteristics of Peaty Soils
福祉環境工学 Urban and Traffic Planning	教授 浜岡 秀勝 Prof. Hidekatsu Hamaoka	安全・安心に利用できる道路環境の創造 Creation of a road environment that can be used safely and securely
	准教授 日野 智 Associate Prof. Satoru Hino	地方都市における持続的な都市・公共交通の計画 Infrastructure Planning for Sustainable City and Public Transportation in Local Cities

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
環境材料工学 Concrete Engineering	教授 徳重 英信 Prof. Hidenobu Tokushige	コンクリートの凍害等の劣化機構および環境配慮型コンクリートの開発と性能評価 Deterioration Mechanism of Concrete and Development and Performance Evaluation of Environmental Conscious Concrete
	准教授 高橋 良輔 Associate Prof. Ryosuke Takahashi	コンクリート構造物の新設設計・維持管理に関する性能評価技術 Evaluation of Structural Performance of Concrete Structures for Construction and Maintenance

共同ライフサイクルデザイン工学専攻 Cooperative Major in Life Cycle Design Engineering

研究分野 Field of Research	担当教員 Faculty Member	研究テーマ Research Theme
ライフサイクル戦略学 Life Cycle Strategy Studies	教授 三島 望 Prof. Nozomu Mishima	製品の環境効率/資源効率評価手法の研究 Study on evaluation methods of product eco-efficiencies/resource efficiencies
	講師 藤原 克哉 Lecturer Katsuya Fujiwara	コンピュータシステム及びソフトウェアシステムの設計技術に関する研究 Study on design of computer and software systems
	講師 福山 蘭子 Lecturer Mayuko Fukuyama	地球環境における元素循環プロセスの解明 Research of mass transfer and chemical reaction during crustal evolution on the Earth
環境調和型システム工学 Systems Engineering for Environment	教授 中村 雅英 ^② Prof. Masahide Nakamura	再生可能エネルギーに関連した流れ解析と誘導場による感性的評価 Flow analysis related to the renewable energy and the evaluation of sensibility by using the induction field.
	教授 田島 克文 Prof. Katsubumi Tajima	電気機器における回路-磁気-運動-熱などの連成解析 Coupled Analysis of Circuit - Magnetic - Motion - Heat in Electrical Machinery and Apparatus
	教授 山口 留美子 Prof. Rumiko Yamaguchi	液晶物性値測定、液晶分子配向技術、液晶素子の電気光学特性に関する研究 Study on measurement of liquid crystal physical property, liquid crystal molecular alignment technique, and electro-optical characteristic of liquid crystal device
	准教授 高橋 護 Associate Prof. Mamoru Takahashi	燃焼炎によるダイヤモンド皮膜の合成 Synthesis of diamond film by flame combustion
	准教授 魯 小葉 Associate Prof. Xiaoye Lu	Bi系高温酸化物超伝導材料の開発 Development of Bi based high Tc oxide superconductors.
准教授 菅原 透 Associate Prof. Toru Sugawara	高温酸化物融体の基礎物性とその応用に関する研究 Studies on high-temperature properties of molten oxides and their application	

注:②は2020年3月退職予定教員を示す。
 ② These professor will retire by the mandatory retirement regulation in March 2020
 注:①は2021年3月退職予定教員を示す。
 ② These professor will retire by the mandatory retirement regulation in March 2021

大学院学生現員

大学院在籍者数

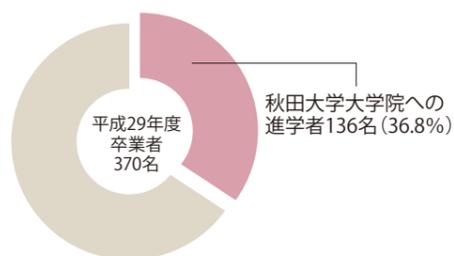
平成30年5月1日現在

博士前期課程	入学定員	収容定員	コース名	1年次	2年次	合計
生命科学専攻	15	30	生命科学コース	17	14	31
物質科学専攻	42	84	応用化学コース	27	16	43
			材料理工学コース	15	16	31
数理・電気電子情報学専攻	45	90	数理学コース	9	7	16
			電気電子工学コース	28	24	52
			人間情報工学コース	12	19	31
システムデザイン工学専攻	36	72	機械工学コース	23	19	42
			創造生産工学コース	7	6	13
			土木環境工学コース	4	10	14
共同ライフサイクルデザイン工学専攻	12	24		8	12	20
合計	150	300		150	143	293

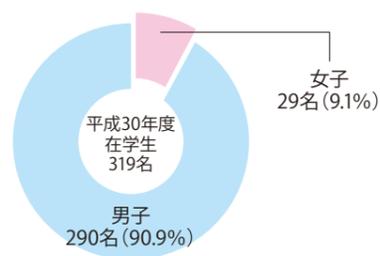
博士後期課程	入学定員	収容定員	領域名	1年次	2年次	3年次	合計
総合理工学専攻	10	30	生命科学領域	2	5		7
			物質科学領域	1	3		4
			数理・電気電子情報学領域	2	1	1	4
			システムデザイン工学領域	2	3	6	11
合計	10	30		7	12	7	26

大学院への進学

秋田大学理工学部
平成29年度卒業生370名のうち、
秋田大学大学院への進学者は
136名(36.8%)となっています。



在学生男女比



留学生受け入れ状況

平成30年5月1日現在

国名	理工学研究科	工学資源学研究科	合計
インドネシア	0	1	1
タイ	0	1	1
中国	4	2	6
フィリピン	0	1	1
ベトナム	1	0	1
マレーシア	3	0	3
モンゴル	0	1	1
セルビア	0	1	1
アフガニスタン	0	1	1
イラン	0	1	1
ザンビア	1	0	1
モザンビーク	1	0	1
合計	10	9	19



留学生等交流実地見学旅行参加の皆さん～十和田湖にて～

進路状況

平成29年度 修了生の就職等状況

平成30年5月1日現在

専攻名	コース等名	修了者数	就職者数	進学者数	その他	
博士前期課程	生命科学専攻	生命科学コース	6	5	1	0
	物質科学専攻	応用化学コース	12	12	0	0
		材料理工学コース	14	14	0	0
	数理・電気電子情報学専攻	数理学コース	3	3	0	0
		電気電子工学コース	27	27	0	0
		人間情報工学コース	14	14	0	0
	システムデザイン工学専攻	機械工学コース	19	19	0	0
		創造生産工学コース	10	9	1	0
		土木環境工学コース	4	4	0	0
	共同ライフサイクルデザイン工学専攻		12	12	0	0
小計		121	119	2	0	
博士後期課程	総合理工学専攻	生命科学領域	※1	1	0	0
	小計		1	1	0	0
大学院合計		122	120	2	0	

※早期修了者

平成29年度 修了生の就職・進学先

〈大学院理工学研究科博士後期課程〉

▶生命科学領域

- 大学教員(早期修了)

〈大学院理工学研究科博士前期課程〉

▶生命科学コース

- 秋田大学大学院博士後期課程 ●公益財団法人 秋田県総合保険事業団
- (株)キミカ ●(株)日本マイクロニクス ●三井金属鉱業(株) ●テルモ(株)

▶応用化学コース

- (株)テクノプロ テクノプロ・R&D社 ●DOWAセミコンダクター秋田(株)
- DOWAホールディングス(株) ●コニシ(株) ●田中貴金属グループ
- (株)タムラ製作所 ●東洋電装(株) テクニカルセンター
- ニプロファーマ(株) ●日本新金属(株) ●(株)新日本テクノカーボン
- (株)日本マイクロニクス ●三菱マテリアル(株)

▶材料理工学コース

- JFE鋼板(株) ●JFEスチール(株) ●KDDI ●KYB(株) ●NOK(株)
- (株)野口製作所 ●新日鐵住金(株) ●東芝メモリ(株) ●日本原燃(株)
- (株)アーレスティ ●(株)日産テクノ ●(株)椿本チエイン

▶数理学コース

- エヌ・ティ・ティ・システム技研(株) ●ヒロセ電機(株)
- 三菱電機ビルテクノサービス(株)

▶電気電子工学コース

- DOWAホールディングス ●KYB(株) ●アルプス電気(株) ●(株)SUBARU
- (株)メイテック ●(株)日立情報通信エンジニアリング ●スズキ(株)
- 東芝エレベータ(株) ●東芝プラントシステム(株) ●トヨタ自動車東日本(株)
- 日本原燃(株) ●三菱電機特機システム(株) ●河村空調テクニカルズ(株)
- 三菱自動車エンジニアリング(株) ●秋田魁新報社 ●住友ベークライト(株)
- 東北電力(株) ●東北発電工業(株) ●日本精機(株)
- 日立産業制御ソリューションズ(株)

▶人間情報工学コース

- TDK(株) ●アイ・エム・サービス(株) ●(株)アルファシステムズ
- エイデイケイ富士システム(株) ●(株)コア ●(株)シグマソリューションズ
- (株)ソフトクリエイトホールディングス ●ドコモ・テクノロジ(株)
- (株)ナツツウエル ●(株)ミマキエンジニアリング
- (株)日産オートモーティブテクノロジー ●(株)日立公共システム
- (株)日立産業制御ソリューションズ ●新日鐵住金ソリューションズ(株)

▶機械工学コース

- KYB ●アーステクニカ ●(株)SUBARU ●(株)タムロン ●(株)ツガミ
- (株)日立パワーソリューションズ ●サンケン電気(株) ●セイコーエプソン(株)
- 大豊工業(株) ●東芝機械(株) ●東北電力(株) ●東北発電工業(株)
- 日本電産サンキョー(株) ●東日本旅客鉄道(株) ●マニー(株) ●村田製作所
- 三菱冷熱工業(株)

▶創造生産工学コース

- 同志社大学大学院 ●JFEプラントエンジニア(株) ●川崎重工業(株) ●京セラ(株)
- (株)クボタ ●シチズン時計(株) ●昭和電工(株) ●新日鐵住金(株)
- ティ・エステック(株) ●トヨタ自動車東日本

▶土木環境工学コース

- 応用地質 ●創研コンサルタント ●日本工営 ●東日本旅客鉄道(株)

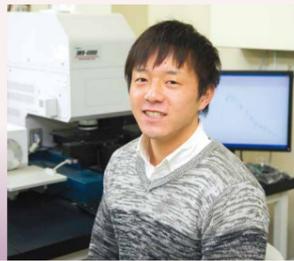
▶共同ライフサイクルデザイン工学専攻

- JFEシステムズ(株) ●JFEプラントエンジニア(株) ●(株)秋田新電元
- (株)岡村製作所 ●カルソニックカンセイ(株) ●新日鐵住金(株)
- 日本航空電子工業(株) ●ヒロセ電機(株) ●本田技研工業(株)
- 三菱自動車エンジニアリング(株) ●三菱電機プラントエンジニアリング(株)

在校生

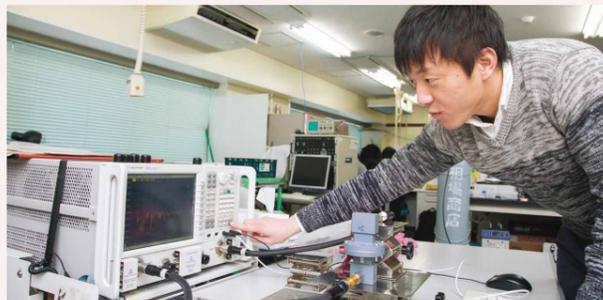
佐野 巧さん

博士前期課程
数理・電気電子情報学専攻2年次



Q1 大学院へ進学した理由を教えてください。また、学部生との違いはどこにあると思いますか。

研究活動を通して論理的思考力を高めたかったこと、ビジョンを明確にしたかったことが大学院へ進学した理由です。学部生における研究活動では結果を得るまでのプロセスが重要視されましたが、大学院では自分の研究の位置づけを明確にすること、研究の幅を広めつつ結論を見出すことが必要となり、広い視野が求められます。

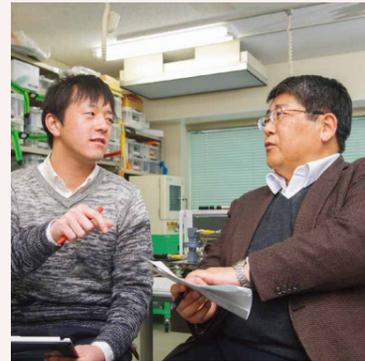


Q2 大学院での授業や実験・学校生活の中で、あなたが「これがおもしろい」「これはためになった」というものを教えてください。

大学院での講義は学部より高度なものとなり、研究では多くの物理的現象や最新技術に接する機会が増え、視野の広がりを感じています。また、技術を事業・経営に生かすことを学べるMOTコースを受講し、企業のマネジメントに必要な知識や考え方を得ると共に、世の中を見通す良い機会となりました。

Q3 今後の目標を教えてください。

社会に出る際には、組織の考え方を早く、確実に捉えて成果に結びつける能力が求められると思います。そのため、今の研究活動の中で論理的に考え、伝える力を高めていきたいです。また、事業・経営にも興味がありますので、書籍を読み、多くの人の考え方に触れながらビジョンを明確にしていきたいと思っています。



Q4 大学院進学を考えている人たちへのコメント

大学院でさらに2年間研究活動を行うことに悩んでいる方も多くいると思いますが、研究の幅を広げる中で考え、感じたことや成功、失敗体験によって視野が広がり、より多くのことを学ぶきっかけになると思います。研究活動を行う中では様々な障壁があると思いますが、常に自分と向き合うことで成長できると思います。

在校生

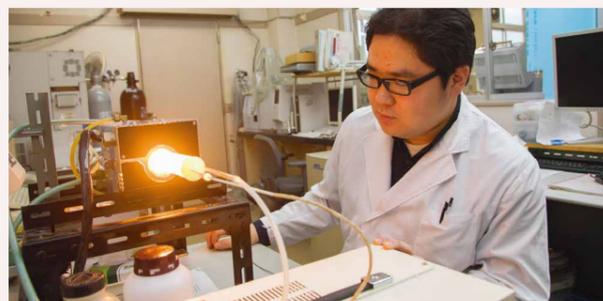
作左部 皓輔さん

博士後期課程
総合理工学専攻3年次



Q1 大学院へ進学した理由を教えてください。また、学部生との違いはどこにあると思いますか。

大学院に進学した理由は、研究をしたいと思ったからです。研究は様々な専門知識を組み合わせたり、あるいは応用したりして新しいものを創造する、あるいは現状の問題に対する解決法を見出す過程のことだと思います。そして、研究を通して論理的な考え方を訓練できる場が大学院であり、学部との最大の違いだと思います。



Q2 大学院での授業や実験・学校生活の中で、あなたが「これがおもしろい」「これはためになった」というものを教えてください。

大学院に入れば当然のことながら学会等で研究の成果を発表する場も経験します。どのような資料を用意し、どのように説明すれば理解してもらえるのか、それを考えながら発表の準備をしました。実際に、その分野の専門家の方々に対して発表し、議論を交わせたことは、とてもおもしろく、また、非常にためになる経験だったと思います。

Q3 今後の目標を教えてください。

大学院でいくつかのテーマについて研究を行ってきましたが、それぞれのテーマで得られた成果を学術誌に掲載されるよう、論文としてまとめることが今の目標です。また、学会活動等を通して大学や企業で活躍している人たちと接する機会をより多く得て、知識に加えて人脈も広げていきたいと考えています。



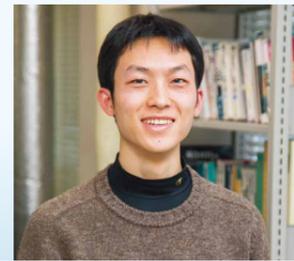
Q4 大学院進学を考えている人たちへのコメント

大学院では研究を通して、今の自分には何が足りないのかを考え、それを得るために何をすべきか考えて実践する場所だと思います。もし今までの自分を変えたい、あるいはさらに成長させたと真剣に思えるのであれば、大学院進学という自己投資をして頑張ってみてください。修了まで本気で取り組めば、数段スキルアップしていると思います。

留学生

張揚さん

博士前期課程
システムデザイン工学専攻1年次



Q1 なぜあなたは秋田大学を選びましたか？

私は留学の際、出身地の中国東北部と気候が似ている東北地方の大学を志望し、世界と繋がる国際化教育にも熱心に取り組んでいる秋田大学を選びました。秋田大学の学部在学中に機械工学についての知識や技術の基礎的なことを修得し、さらに専門的な最先端技術を研究し、将来社会で活躍できるようになりたいと考え、秋田大学大学院へ進学しました。



Q2 あなたの国について良いところを教えてください。

私が母国について最も誇りに思っているのは、何千年もの長い歴史があることです。近年、中国の経済は急速に発展し著しい成長を遂げています。広大な面積を有し、美しい自然風景がひろがっています。民族も多種多様であり、民族や地域間でも文化や食生活等の違いがあり、非常に興味深いです。ぜひ中国へおいでいただき、素晴らしいさを体感してほしいです！

Q3 日本と中国の一番大きな違いは何ですか。

中国と日本はアジア諸国に属しており、食生活ではお箸を使ってご飯を食べます。また漢字を使うこと等似ている点はたくさんあります。しかし、一番大きな違いは国の発展状況だと思います。日本は発達国、中国はまだ発展途上国です。教育水準をあげ人材育成を行い、あらゆる産業の技術開発を推進していくことが国の発展につながるのではないかと考えています。

Q4 秋田大学と日本で気に入っていることを教えてください。

学部では頭の中に学問の地図を作るのが目印ですが、大学院では地図を用いた情報収集・課題解決の方法論が身に付き、専攻分野の世界観が変わります。この体験は専攻分野と異なる分野でも仕事でも応用できるもので、やりたいことを実現する力、自分の将来をデザインする力になります。迷うくらいなら、チャンスがあるなら進学することをお勧めします。

Q5 修了後の夢は何ですか。

社会に出て、大学と大学院で学んだ知識を活かして企業で働きたいと思っています。夢というより、自分はやりたいことがあります。私は高校生からずっと日本の技術に憧れがありまして、ものづくりの職人になりたいです。将来、自分またはグループとして作った（設計、開発）ものをこの世界に残し、社会に貢献したいです。

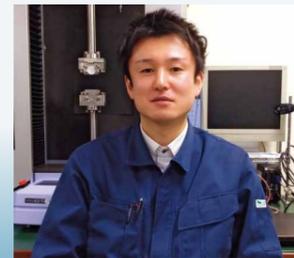
Q6 留学に興味がある学生へのメッセージをください。

留学では、新しい文化、言語、食べ物、習慣等に触れることができ、いろいろな人との出会いもあります。その国の雰囲気や体感することは人生にとって大いに役に立つと思います。また、勉学においても、新しい見知から研究に関する経験や能力が身につく自身の世界が広がります。チャンスがあれば、是非海外へ留学することをお勧めします。

社会人学生

黒沢 憲吾さん

博士後期課程
総合理工学専攻2年次



Q1 秋田大学を選んだ理由を教えてください。

県内出身ということもあり入学前から秋田大学に訪れる機会が多かったこと、私が勉強したかった材料工学について学べる学部があったことが進学した主な理由です。また、秋田大学には秋田鉱山専門学校からの歴史と伝統があることも魅力の1つだと思います。



Q2 社会人入学を志したきっかけは何ですか。

元々、研究職に就きたいという思いがあり博士後期課程に進学していましたが、就職のため中退しました。職場では材料工学に関する研究業務に携わっており、ここでも研究者として一人前になるためには学位が必要だと感じる事が多く、社会人入学を決めました。

Q3 大学で学ぶことの魅力はどんなところですか。

学生の頃は気付きませんでしたが、社会人になってから大学で論文や図書を検索・閲覧できることは大きなメリットだと感じます。また、情報統括センターのシステムも充実しており、構造解析や数値解析のソフトウェアに関する支援も手厚いと感じています。

Q4 今後の目標を教えてください。

大学と職場が近く、両方の装置を活用しながら研究を進められていることが今の環境の強みだと感じています。今後は早く学位を取得して、これまで繋がりをもちことができた秋田大学の先生方と共同研究などをとおして、研究成果を発信できればと考えています。

Q5 社会人入学を考えている人たちへのコメントをお願いします。

仕事と大学の両方から刺激を受けられるため、以前博士課程にいた頃よりも充実していて面白いと感じています。社会人博士は簡単な進路ではありませんが、確実にスキルアップできるチャンスです。職場や大学の協力を得ながら挑戦してみたいかがでしょうか。

学生サポート

授業料等(予定額)

●大学院生

入学科:282,000円/授業料:年額535,800円

※博士前期課程・博士後期課程とも同額です。ただし、博士後期課程の入学科について、秋田大学大学院博士前期課程若しくは修士課程を修了し、引き続き本課程に進学する者は不要です。

学生サポート制度

●入学科の免除および徴収猶予

経済的理由により入学科の納付が困難であり、かつ学業優秀と認められる場合、入学前1年以内に、学費負担者の死亡又は本人若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けたことにより、入学科の納付が著しく困難である場合については、本人の願い出により選考の上、入学科の全額又は半額を免除若しくは徴収を猶予する制度があります。

●授業料免除

経済的理由により授業料の納付が困難であり、かつ、学業優秀と認められる場合、学費負担者の死亡又は本人若しくは学費負担者が風水害等の災害を受けたことにより、授業料の納付が著しく困難と認められる場合については、本人の願い出により選考の上、授業料の全額、半額又は1/3を免除する制度があります。

奨学金

<日本学生支援機構の奨学金制度> (※要返済)

学業成績および人物ともに優れた学生で、経済的理由により修学が困難な学生のために奨学金を貸与する制度があります。本人の願い出により大学が選考・推薦し、支援機構が採用決定します。毎年4月に説明会を開催します。

●第一種奨学金(無利子で返還するもの)

◎修士・博士前期課程 50,000円/ 88,000円
◎博士・博士後期課程 80,000円/ 122,000円

●第二種奨学金(利子をつけて返還するもの)

50,000円/ 80,000円/ 100,000円/ 130,000円/ 150,000円
(5種類の月額から選択)

●入学時特別増額貸与奨学金(利子をつけて返還するもの)

100,000円/ 200,000円/ 300,000円/ 400,000円/ 500,000円
(5種類の貸与額から選択)

<理工学研究科独自の奨学金制度>

●理工学研究科博士前期課程学生に対する奨学金 (※返済不要)

秋田大学大学院理工学研究科では、本研究科博士前期課程の学生で、経済的理由により修学困難と認められる者及び学業成績、人物共に優れている者に対し、教育・研究に専念するための援助経費として、北光会の活動の下で寄附された基金及び、本研究科修士生故光野哲也氏のご遺族からの寄附された基金、学部後援会から寄附された基金から返済の必要のない奨学金を給付します。

- ◎募集人数:1学年20名程度
- ◎募集時期:博士前期課程1年次…前年度の7月頃
博士前期課程2年次…前年度の12月頃
- ◎支給金額:月額30,000円

ただし、支給期間中に休学、退学、除籍、又は支給期間中に他の給付型奨学金(月額48,000円以上)の支給を受けることとなった場合は、その時点で支給を停止します。

●理工学研究科博士後期課程学生に対する奨学金 (※返済不要)

秋田大学大学院理工学研究科では、本研究科博士後期課程の学生で、学業成績、人物共に優れている者に対し、北光会の活動の下で寄附された基金から返済の必要のない奨学金を給付します。

- ◎募集人数:若干名(応募は指導教員からの申請によります)
- ◎募集時期:前年度の2月頃
- ◎支給金額:月額50,000円

●理工学研究科外国人留学生に対する奨学金 (※返済不要)

秋田大学大学院理工学研究科では、経済的に援助を必要としている外国人留学生に対し、北光会の活動の下で寄附された基金から返済の必要のない奨学金を給付します。

- ◎募集人数:5名程度
 - ◎募集時期:4月頃
 - ◎支給金額:月額20,000円
- ただし、支給期間中に休学、退学、除籍、又は支給期間中に他の給付型奨学金(月額48,000円以上)の支給を受けることとなった場合は、その時点で支給を停止します。

<その他の奨学金制度>

各地方公共団体および民間育英団体等が実施している奨学金制度があります。これらは募集の時期が4・5月に集中しています。本学を通じて募集するものは、学内掲示板等でお知らせします。本学を経由せずに直接募集する団体も多くありますので、これらについては直接問い合わせる必要があります。

TA・RA関係

1)ティーチング・アシスタント(TA)

大学院に在学する優秀な学生に対し、大学教育におけるきめ細かい指導の実現及び将来教員・研究者となるためのトレーニングの機会として教育活動補助業務を行わせ、これに対する手当を支給します。職務内容は、授業科目を担当する教員の指示のもと、学部学生及び博士前期課程学生に対する実験、実習、演習等の教育補助業務を行います。勤務時間は、月40時間(週10時間程度)以内を標準とします。

平成30年度採用実績:187名採用
待遇/年間 8~166時間 (時給)博士前期課程学生 1,150円
博士後期課程学生 1,310円
※担当時間数については、在籍コースにより異なります。

2)リサーチ・アシスタント(RA)

大学院博士後期課程に在学する優秀な学生に対し、学術研究の一層の推進に資する研究支援体制の充実・強化並びに若手研究者の養成・確保を推進するため、研究補助者として補助業務を行わせ、これに対する手当を支給します。職務内容は、研究補助者として研究に従事し、研究活動に必要な補助業務を行います。勤務時間は、年間200時間(週20時間程度を上限とする。)程度以上を標準とします。※1)、2)は、いずれも当該大学院学生が受ける研究指導、授業等に支障が生じない範囲で業務を行うこととします。

平成30年度採用実績:15名採用
待遇/年間 72時間 (時給)博士後期課程学生 1,310円
※担当時間数については、年度により異なります。

施設

●学生寮

秋田大学には、次の学生寮があります。いずれの寮も日常生活は寮生が自主的に行っています。入寮希望者は学生支援・就職課に相談してください。

寮名	入寮対象者	入寮定員	寄宿料(月額)	構造	所在地
西谷地寮	全学男子学生(留学生含む)	130人	20,000円	鉄筋コンクリート6階建	秋田市手形字西谷地5-1
手形寮	全学女子学生(留学生除く)	40人	5,300円	鉄筋コンクリート3階建	秋田市手形田中5-50
本道寮		31人	6,900円	鉄筋コンクリート6階建	秋田市柳田字糠塚100-3

※寄宿料のほか寮生が私生活のために使用する光熱水料、インターネット回線及びNHK受信料等は、自己負担です。各寮の概要は次のとおりです。

西谷地寮(男子)	居室は個室で机、椅子、ベッド、クローゼット、トイレ、浴室、ミニキッチン(IH)、冷蔵庫、エアコンを備え、共同設備として1階にメールボックス室と飲料水自販機コーナー、3階・5階に談話室、また、偶数階にランドリーコーナーがあります。手形キャンパスまでは徒歩15分です。本道キャンパスまでは自転車まで10分です。
手形寮(女子)	居室は個室で机、椅子、本棚、ベッド、ロッカー、エアコンを備え、各階の共用施設として、補食室、浴室、洗濯室、トイレがあります。手形キャンパスまでは徒歩5分、本道キャンパスまではバスで10分です。
本道寮(女子)	居室は個室で机、椅子、ベッド、押入、タンス、棚、ガスストーブ、エアコンのほか、ミニキッチン、冷蔵庫、コンロを備え、共用施設として、談話室、浴室、洗濯室、トイレがあります。手形キャンパスまではバスで10分、本道キャンパスまでは徒歩3分です。



西谷地寮



手形寮



本道寮

●宿舎(留学生向け)

秋田大学には、留学生や研究者用の宿舎として留学生会館と国際交流会館があります。

留学生会館 International Student House 所在地:〒010-0041 秋田市広面字高田4番地(大学までの距離:徒歩15分)

	部屋数	設備・備品等	寄宿料(月額)
単身室	27	ユニットバス・トイレ、キッチン、ベッド(布団・シーツなし)、机、椅子、電気スタンド、本棚、靴箱、冷蔵庫、電子レンジ、除湿機、消化器、ガス警報器、カーテン、ガス暖房機、洋服ダンス、エアコン、インターネット接続(Wi-Fi)	5,900円
夫婦室	3	単身室の設備に加えて、洗濯機、乾燥機、食卓セット(テレビはありません)	9,500円

共用設備:談話室、和室、洗濯室 ※寄宿料は水道光熱費、会館運営費を含みません。



国際交流会館 International House 所在地:〒010-0862 秋田市手形田中5番50号(大学までの距離:徒歩5分)

	部屋数	設備・備品等	寄宿料(月額)
単身室(A棟)	10	ユニットバス・トイレ、キッチン、ベッド(布団・シーツなし)、机、椅子、電気スタンド、靴箱、冷蔵庫、電子レンジ、除湿機、消化器、ガス警報器、カーテン、衣類収納、エアコン、インターネット接続、ガス暖房機(A棟のみ)	5,900円
単身室(B棟)	18	留学生用単身室(A棟)の設備に加えて、洗濯機	15,000円

他、研究者用居室が10部屋あります。共用設備:多目的ホール、ミーティングルーム、洗濯室 ※寄宿料は水道光熱費、会館運営費を含みません。

